目次

▲研究
枝打に就て
森林火災減少の傾向
製材場經營法

▲文苑
白馬及鑓の登山
森人萬語
理想の山御嶽
盛岬の夕暮
和歌、俳句

▲雜報
學校記事
運動會記事
會員移動其他

大正四年十月二十五日　第七拾二號　（毎月廿五日定期刊行）　（明治四十二年七月十日第三種郵便物認可）

研究

枝打に就て

西澤靜人

吾人が木材に對しての要求は澤山あるので、茲に一々述ぶる事は出來ないが、節又は瘤のため其の美觀を損するのは甚しいもので、切角床柱其の他の用途に使用せんとして買ふた木材が、大なる節孔、瘤等がある樣では、如何に色澤良く眞直であつても、決して理想的の木材とは云はれず、又大に其の價値を減ずるものである、斯かる木材は單に美觀を損するのみか、割裂性耐壓力耐張力其の他木材の工藝的性質を薄弱ならしむるものある故に、吾人は之れ等の欠點なからんことを望む。

然らば、吾人は之れ等の目的に從ひ、樹木をして無理にも希望に向はしめ、自ら節又は瘤のなきように生長せしめねばならぬために、時々手粗い事もする、營養も與へる、害敵も除いてやる、恰も吾人は醫者となつて、外科手術（假りに枝打伐木等を外科手術と名づく）も行はなくてはならず、又內科治療（假りに施肥害虫豫防等を內科術と名づく）も施さなくてはならぬ、併し外科手術と云ふても、只豫防又は傷となつても甚だしく美觀を損せずして、其の工藝的性質に適せしむるにあり。

斯くの如き、最も肝要なる枝打の目的並に之れが施行の方法に就き少しく述べんに

一、枝打は長幹無節にして其の利用價大なるものを得る事、

林木は段々長生するに隨ふて、隣木の枝と枝とが重なり、下枝は自然枯死脫落するものであるが、大枝は枯れても落ちることなく永く樹幹に附着するか、又は不完全なる落ち方をなして、所謂死節（板等の時々節が落ちて孔となるものがある此れは全く枯死する枝が材中に止まりたるに過ぎず斯かる節を死節 Hornoste と云ふ）を作りて立派なる所には使用する事が出來ない木材となる故に、之れ等の枯枝は勿論生枝の一部をも適當に枝打を行ふて、所謂長幹無節にして且つ本末同大なる良材を、產出せしむると同時に、下木の生長を保護し、達路を乾燥せしめ、火災を防備する等の目的に依り行ふものである。

二、枝打の季節は樹液の流動停止期に於て行ふ事、

枝打の季節は下刈と異なり夏季に行ふことを避くべきで、若し夏季に行へば切口より樹液流出するのみならず、脫皮して雨水の浸入を招き生長を害する故に、樹木の葉が黃味を帶びてから春新芽の出るまで、即ち樹液の流動停止期に於て行ふべきものである、然れども長野縣下の如き積雪夥しく又

寒氣强き所或は東北地方北海道の如きは、若し嚴寒の候に行へば、切口氷結して卷込む罷力を失ふが故に、晩秋より冬季を經て春季に至る三季あるも、就中最も適當なるは春季にして樹木の樹液流動を初めんとする一二週間前に於て行ふことを可とす。

三、枝打の量は力枝以下なるべき事、枝打の量に就ては學者間にも色々の說があるが、吉野地方に行はる所に依れば、力枝以下のものを打ち落するを普通とす、力枝とは其の多くある枝葉の中で一番長く横に擴がつて居る枝にして、其の木の爲めに一番大切で、最も盛に働いて居る枝である、此の力枝から上の枝を伐つては樹木の育ちが惡いと云つて、力枝から下部を伐つて居る、又此の力枝は樹木の生長するに從つて毎年變つて往くもので、今年は此の枝が力枝であつても來年は其の上の枝が力枝になるのである故に、力枝から下の枝を伐ることは結局不用に成り掛つたものを除くので樹木の爲めには却て良からうと思ふ。

四、枝打の回數は生長を妨げざる範圍に數回行ふべき事、

枝打の回數は樹木の生育狀態により一樣ならざるも、吉野地方にては杉扁柏等は八九年より二十二三年頃迄は生枝死枝の別なく是を刈拂ひ三十年四十五年六十年目に都合四回の枝打を行ふ、即ち

三十年目　凡根元より三間以內

四十五年目　同四間以內

六十年目　同六間以內

吉野地方の方法は斯の如くなるも、獨立地の關係上又は交通不便なる地方にありては、枝打の枝葉は何等利用の途無きのみならず費用多く要するを以て、之れ等の標準を斟酌して、適當の時期に於て、一二回完全なる枝打を遂行すれば、足る事ならんと思ふ。

五、切斷部は平滑にし卷込に便ならしめ、

雨水の浸入を防ぐ事、

枝の伐り方に、樹幹に沿うて枝元より伐るものと、枝の中途より伐るものとある、而かして、枝元より伐るにも幹と並行して垂直に之れを伐り、或は枝に直角に横側より之れを伐るが垂道に伐ると切口は多いが手術を巧妙にする事が出來るので、切口の癒着する事が速くある、横に伐るのは手術が巧妙に出來ないのみならず、伐り殘りが存し易いから切口は小さいが卷込む事が遲い枝の中途から伐ると大抵の枝は枯死するから死節を生ずるけれども、只一時に枝元から伐るのは過度である場合、又其の他の關係から枝全部を伐り難い時には、枝の中途から伐る、此の時は切り殘の部分に數葉を止めて、枯死する事を防がねば死節が出來るから不良なる材となる故に、適當の時期を見て再び根元より伐るを可とす、切口は成るべく早く卷込ましめねばならぬから、低く平かに切る決して伐り掛けて殘し又は切口を割り又は切口の皮を剝離し腐朽せしむるが如きことあつてはならぬ。

枝打の器具は銳利なる斧又は鉈を用ゆるが良い、鋸を用ゆると切口が粗糙で時々鋸屑が附着して平滑ならず、ために卷込む事が遲い、故に大枝には鋸を用ゆるも、切口を鉈にて平滑に削り直すを良とす。

要するに枝打の方法は可成的幹部に接近し平滑に且つ樹皮を脫損せざる樣に努め、大枝の傷口或は貴重なる樹木の種類に於ては保護としてタール粘土等を塗沫するか油紙又は竹の皮にて該部を包んで、雨水の浸入せぬ樣にするを良とす。(完)

警程一千日 (其十八)

森林火災減少の傾向　曾山子譯

北米合衆國及加奈太地方のウルワルド中には善光寺の燈明と等しく昔より消滅せし事なき森林火災ありとは屢耳にせる所なるが嚮に報ずたる如く大規模なる防火組合の奮鬪等により漸次損害額減少の傾向にあるは次の記事によりて窺知するを得んか

最近統計の示す所に依るに一九一四年に於ける米國西海岸なるナショナルフヲーレストの火災を被れる額は木材積三億四千万ボールドフイートにして其價格三〇七、三〇

三ボンドに近く又稚樹の損失一九二、四〇八ボンドに價す(合計大約五百萬圓)蓋し此の巨額の損害は六、六〇五回の火災に依るものにして其內國有林及び私有林の損失量は合計二二八、〇〇八、〇〇〇ボールドフイート其價格一七五、三〇二ボドンにして火災合計面積六九〇、二四〇エークルの內三一〇、五八三エークルは國有林及び私有林なり。

然るに該年は火災に對しては特に悲しむべき凶歲にして氣溫高くして風强く加之旱天久しきに亘りて打續きたるにも拘はらず一九一一年の平均損害は一三一ボンドなりしも本年は一〇三ボンドなるは良傾向と稱すべきなり、此の森林火災の損失中八五パーセントはアイダホモンタナオレゴン及びワシントンの各州に起れるものにして該地方のみにてナショナルフヲーレストの總蓄積の半量より多しと云ふ、此等火災の原因中主なるは電光によるものにして二〇三二回の火災を惹起せしめ次は野營者にして一一二六回又其次は汽車の運轉による一二一〇回なり而して放火者によるもの四七〇回他は雜草木の燒拂ひ鋸工場等の失火其他發火の原因不明のものに依る火災なりとす

(九月十日小縣郡長村の農舍にて)

製材場經營法

野尻製材所金田美行

緒言

商事經營學の應用方面は主として銀行經營法及工場經營法なりとす而して工場經營は機械工業經營織維工業經營をはじめ各種の工業多き中只今茲に製材場經營法に付き披見を述べ以て會員諸彦の參考に供せんとするものなり然れども經營法なるものは固より工場の生產の技術方法を研究するものにあらずして一つの工場を一の營業上成功せしむるため如何る組織經營監督の方法が適するかを研究するものなり抑も工場經營者の根本義は出來得る限り經濟的の方法をとり勞働の効果充分ならしむると共に生產費を最小限度に節減し消費者に對しては忠實親切を旨とし之れによりて品質善良且つ低廉なる物品を產出し其の工場の繁營を計るにありとす斯の如き個人企業の堅實なる根據によりて自然に優勝者の地位に立つことを得るものにして進んでは國外輸出等も促進され國家經營上最もよろこぶべき結果に至り所謂個人の發展が國家發展の基となるべし之れ工場經營法の甚だ重要なる所以なり

設立

偖工場設立に際し其の場所を撰定し面積を定め建築設備の樣式內容等を定むるに當り其の企業に適應すべき事を注意し決して過大の設計をなさず先づ設立計畫書及收支見積計算書を作成し事務所の所在地工場の建設地を定む可く場所選定については(1)動力を得るの難易(2)原料を得るの難易(3)氣候其他天然の狀態生產及經營上の適否(4)適當の勞力供給を得るの難易(5)生產品消費市場の遠近(6)製品發送の便否等は最も考量すべき條件にして若し偶然に某土地を廉價に買入るゝ機會を得或は特殊の關係によりて特別の利益を與へられたるが爲右の條件を無視して之を擇ぶが如きは即ち一時の利益のため工場永遠の立脚地を失はしむるものなり例へば製材工場は資材の產出所又は少くも之を容易に得べき場所を要す資材の供給に差支或は之が費用の多額に達する時は隨て製品も高價に成り遂に競爭負けになる事多かるべく又氣候は降雨量の多き地方及び空氣濕潤なる場所は製品の干燥を充分成らしむる事不可能にして縱板の如きは直ちに罷を生ず或は蒸れ品質を甚敷損するものなれば成る可く適當なる地方を選ぶと同時に亦原動力に水力を使用する工場は勿論火力を使用する場合と雖もボイラアに使用する水は少からず其他場合によりては原料池水中に貯材を要するがため水便には一層重きを置かざるべからず而して製品消費市場とあ

まり遠隔の地に工場を設くるときは運賃の關係に於て他の市場近くの製品と競走するに不利益を蒙る事多きを以て市場の遠近運輸機關の便否に付き究むるを要し且つ將來移轉の請求を受くる事の有無に付き考慮する必要あり右の條件に隨ひて工場建設の場所を選定したるときは工場の規模に適度の面積を有する事を要す徒らに廣濶なる不用の土地を擁するは空しく資本を收益なき所に個定せしむるものにて個定資本利子と租税とを計上せば生産をも高からしむる劣有り然し將來營業の擴張をなすに當りて必要となるべき餘地をなし又は之を獲得し得べき機會を保留し置くは必要なり次に勞働力供給の問題は先づ其の工場の所期する生産に必要なる人數を定め所要人數を吸收し得るや否や適當なる職工人夫を得るや否や必要に應ト何時なりとも補充し得るや否やを究め之に對し適當の用意を要す固より所要勞働力に對する報酬の多寡を推算するは必要にして之は地方に於て行はるゝ賃金及び同種事業の一般賃金を參考に供すべく、若し巨額の勞働報酬を要して收支償ふの見込なく又生産費の点に於て既存の工場と競爭不可能なりとすれば即ち工場は營業として成立せしむる事を得ざるなり勞働力の供給は實際上屢困難するものにて甲信地方の製糸業者始め紡績工場炭礦業が勞働者を得るための苦心畫策費用の多額は殆んど想像以上なり故に勞働者吸收維持策として勞働者の住宅病院教育娯樂等の所謂社會政策的設備をなすも一策なる可し小生の前任地鹿兒嶋大林區署山野製材場の如きは家族携帶者には一軒宛官舍を備へ獨身者には合宿所を與へ娯樂としては体操用金棒を設置し有り而して職員より職工人夫にいたるまで一人殘らず會員たらしめ溫交會を組織し毎月十錢宛を醵金(會費として)せしめ三大節の宴會費に充て其他蓄音器園碁將棋歌留多トランプ弓等を備へ度々例會を開催して慰安しつゝ職員始め其他知名の士を依頼して有益なる講話を聞き藝人を雇つて演せしめなどしたりしが結果頗る良好なりし

工場の設計をなすには既説同種の工場視察をなし且つ充分に專門家の意見を徵する事の必要なるは勿論設計上第一に固く守る可きことはトめより一時に過大の設計を爲さゝるにあり過大ならば大部分の資本個定の其の利子損失を計上せざる可からざるのみならず現存せる設備を充分に利用する事を得ざるために經費を增大し製品の實價を高むるの虞れあり要するに設備大なるときは其の利用せらるゝと否とに拘らず常に大なる費用を要するものなる事は決して忘る可からざるなり但し新工場を建築するに當りては其の規模の中庸を得ることを必要とするとともに將來擴張を必要とする場合に工場全體の統一と將來の作業を阻害する事なく容易に成就し得べき計畫をなし置くを肝要とす次に各建物の適當なる配置を定むるは第一に氣罐室の地位なり氣罐室を燃料を直接軌條によりて搬入し得べき場所を撰み運搬により生ずる費用を避け又蒸氣に大なる損失を生ずる事を防ぐべし

次に工場内にて原料生産品等を不必要に彼方此方に絶わず移動せしむることは作業を阻害し且つ經費を多からしむるものにして板子の如き重量品を取扱ふ工場に於ては殊に左樣とす故に工場建設の初めに當りて建物設備の順序系統を整へて成る可く之を生産の順序又は其他の取扱上の便宜に據らしめて仕事中の物品を諸方に轉々せしむること無き樣に注意すべし建物と機械の適當なる配置を誤まり原料製品等を無益に轉々せしむる如きことあらば若し其勞力を金錢に見積る時は意外に大なるものにして著るしく生産費を高むるの結果となるものなり工場の建物は建築に關する法令の制限ある場合には之れに從ひ且僅少の費用を以て之を實行し得る如く設計し更に火災地震等の災害に備へ進んでは勞働者の健康に障害を與へざるの注意を存すること必要にして就中留意すべきは採光に通風の二点にして光線不充分ならば勞働困難ならしめ又燈火を要すること多く生産費に影響を來し又空氣不潔ならば勞働の活働力を阻害し且つ其健康を害するに至る工場の床は多くの場合に板張

りが利益である板張は耐久力あり又總ての他の材料よりも暖かにして且物を墜落せしむるも之れに損害を與ふる事殆んど無く一部の修繕掃除等も容易なりとす而して監督室は工場に附設し置く時は監督の傍執務し得て監督減員の便利あり尙ほ工場を建設するに當りては其營業が官廳の認可を要するものたるや否やに注意すべきは勿論工場設置すべき地方によりては大に附加税率を異にする場合あり其額甚だ少からざるものあれば大いに考量を要すべし以上遺憾なく定めたる場合には工事及經營に要する資本金の概算營業開始後の收支豫算等の見積書を作成し利益を擧ぐる見込立ちて始めて工場は成立し得るものなり此設立計畫書の內容は固より規模の大小によりて大に異なるも大規模の工場計畫書中に記載の主なる事項は左の如し

甲、資本 (イ)工事資本(1)創立費及資本調達費(2)土地水流等の購入費(3)水流利用の工事費(4)工場及附屬建物建設費(5)暖房燈火設備費(6)動力機關並に每年一定の生産品製造に要する機械類の購入及据付費(7)建設工事豫定期間內に要する運賃並に一般費用(8)試驗費及不測の事故に對する豫備費(9)建設工事中の利用(ロ)經營資本經營資本は一年間の經營費を基礎として之れを計算する事を得べく而して經營資本の運轉が一ヶ年に一回なる時は經營費に等しく之に反し經營資本が一ヶ年に五回運轉するとせば經營資本は經營費の五分の一なり

乙、收支豫算 (イ)生産額總收益豫算即ち一定の勞働者數にて一年一定の勞働日數一日一定の勞働時間を以つての製産品價格及平均價格の計算(ロ)經營費豫算(1)工事資本及營業資本の利息(2)個定資本の減價銷却額(3)一定額の生産に所要各種原料品の購入費(4)庶務費事務員監視人等の俸給建物機械の維持修繕費保險料旅費租税事務所用消耗品運賃等(5)勞働賃金(6)販賣に關する費用(ハ)純益豫算即ち右總收益豫算より經營費豫算を差引きたるものが純益の豫想額を示すものなり

丙、純益金處分豫定、純益金中の幾何を積立て幾何を役員賞與として頒ち幾何を投資者に分配する等純益處分の方法を豫定するなり。

大体以上の計算をなし初て企業家は其事業の成否を知り資本家は之を見て投資者の安否及投下資本に對し充分利益回收し得るや否やを判斷し得べきものなりとす。(未完)

文苑

白馬及鑓の登山

宮川丑作

白馬山の名に憬がるゝや久し、昨一度安藤前校長と登山の計劃ありしも果さゞりしが今夏幸單騎其宿志を達する事を得、快言ふ可からず。大要錄して林友誌上を汚がすことゝせり

八月七日、木曾は福島の夜行に乘り、午前四時頃明科に着下車。夫より犀川を渡りて糸魚川街道を進み、池田大町を經て、三湖の景を賞しつゝ、午後五時過ぎ北城村四ッ谷着。山木旅館に投宿諸般の準備を爲す。

翌八日壹名の强力と共に午前七時頃出立、名も知らぬ人々と道連れとなり、人夫强力等を合せ一行總て十三四名となる。裾野過ぐる事里許にして二股と云ふ橋を渡る、其處は白馬より來る北股と、鑓より來る南股との合流なり。右して次第に喬木帶に入り瀧の澤、大平、沼池澤、沼池平、中山澤、中山平、猿倉、長走澤、長洞澤等を經、午後二時頃白馬尻に達し、灌木帶に移る。其處の喬木帶は殆んど濶葉樹にして針葉樹に乏しく、樹陰晝尙暗き處に、諸種の草本身を沒する迄に繁茂せる有樣、他の高山と著しく其趣を異にせり。白馬尻より彌大雪溪にかゝり、二時間餘にして草本帶の葱平に達せり、葱平は所謂高山の御花畠にして千紫萬紅一時に花開き艶を競ひ麗を爭ふさま美觀言ふばかりなし。夫より九十九折なす急坂を昇り、氷河の遺跡ありと稱せらるゝ大磯雪を越わ、午後五時頃頂上の屋に達す採集しつゝ登りし事とて、時間は多く要し

たるも、他の高山に比して登攀困難ならず唯だ雪渓あるを異とするのみ、一行中に大阪市小學校の一先生あり、予と同年輩にして長老なり、他は何れも血氣の若者なりしに、其屁古垂れさ加減の、我等以上なりしには驚きたり。

一、白馬山

白馬山は飛彈山脈北方の雄にして、海拔約壹万尺、北安曇郡北城村に屬し、信濃及越中、越後の國境に跨る。珍岩より成り、紅蓮の空際に開くに似たれば、又大蓮華の名あり。北端は走りて日本海に名高き親不知の斷崖となり、南方は重疊せる幾多の山嶽を經て我が木曾の御岳に到る。

北城村四ッ谷より頂上迄凡五里、登攀困難ならずして、途上奇勝多く、山腹葱平前後の渓澗約壹里は万年の雪を以て覆はれ、氷河の遺跡ありとさへ稱せられ、日本アルプスの名愈高し、且高山植物極めて豐富にして、名花珍草少なからず。

遠く山巓を眺むれば天馬の空を馳するが如く、近く其頂上を極めて展望せんか、飛彈山脈は言ふに及ばず、立山火山脈、木曾山脈、赤石山脈は指呼の間に在り、淺間燒嶽の噴煙より、遠く富士の英姿は双眸の中に收むる事を得べし。更に眸を轉ずれば、北海の蒼波は脚下に疊むが如く、汽船は黑煙を吐き、漁船は白帆を揭げて、彼方此方に航するを見うべく、瞳力竭くる處水光天と髣髴たり。若し夫れ日出日沒の景、若くは星斗霄漢に欄干たる暗夜の光景に至りては下界にのみ踟躕する人々の到底想像し得る所に非ざるなり。然も亦忽にして漠々たる雲霧の海を現はし、又忽にして脚下に雷鳴を聞く等、殆んど端睨に暇あらざる也。

こは獨り白馬山に限りたる事に非ざるも、登山の樂は一に懸つて此頂上の展望に在りと言ふも過言に非ざる也、這回の登山には所謂日本晴と云ふ程には非ざりしも、幸に雲霧少なく、充分に採集の目的をも達し、且此頂上の展望をも擅にする事を得たりしは、誠に望外の幸なりき。

二、大雪渓

大雪渓は實に北アルプスの標徴にして、所謂『万年の雪』なり、蓋し冬季は西北風多き爲め、越中方面より吹き送られたる粉狀微細の吹雪が、深く谿谷に堆積し、盛夏の候に至るも尙融け盡きず、唯だ表面は次第に融くるを以て、其水濕は內部に滲透し凍結して堅氷となれるものか。

万年の雪と稱するも、表面は次第に解け、底に流れのあるを見れば、逝く者は夫れ斯の如きか、晝夜を捨てずして、新陣代謝は免れざる事ならん。勾配緩ならずして三十度以上、其面凹凸して細波の如くなれば、其をたどりて登り行くも、滑りて行歩自由ならず、僅か里許の道程なるに約三時間を要す、然るに降るに若し橇にても作りて乘らんか、僅か五分間にして足ると云ふ。スキーにても試みば面白き事ならん。

三、頂上の小屋

絕頂を稍下れる窪處に二ケの小屋あり。一は稍大なれど、唯だ周圍に石を疊み板を以て屋根を作るのみ、一二の鍋ある外何等の設備もなし。僅か七八名を容るゝに過ぎざれば、十數名に達せんか、殆んど横臥す可からず。赤石等の如く無きには優るも、御岳駒ヶ岳の夫れと比す可くもあらず。清水は其附近にあれど、唯一の燃料たる偃松は附近に多からざれば、終夜爐邊に暖を採る事も叶はず。一行は二つに別れ、我等は七八名と共に此小屋に一夜を明かす、予は防寒の用意も充分せざりしかば寒さ堪え難かりし。小屋に宿泊帳の備付あり、披き見れば、知人の筆の跡も尠なからず、安藤前校長のもありたれば、昨年の事ども思出され先生が活躍のさま眼に見るが如かりし。

四、鏈ヶ岳の溫泉

同じ路を降るも興なからん思ひ惑へる折柄同行者あるに力を得、鏈ヶ岳溫泉に向ふ。一行は安曇邊の先生らしき若者三人、夫等の人たちの强力貳名、合せて七名。先づ白馬頂上より杓子を經て鏈岳頂上に登る。夫れより山稜を南に降ること十數町にして稍平坦なる所に至り晝食す。右は行きたる者の歸りたる事なしと云ふ恐ろしき不歸谷、我等は左に折れ、岩石の崩壞せる急斜面を

降ること十數町にして、一雪渓の有る處に出でたり。其處より近道をとりたれば、熊笹、ブナ等の茂れる中を行きたるに、忽ち千仞の斷崖に出で、進退殆んど谷まるに至りしが、幸無事に通過して、溫泉の直上なる雪渓に出づる事を得、其處に一夜を明かせり。

溫泉は鏈ヶ岳の前面、海拔約七千尺の處、南股の水源谿谷に在り、全く無人の境なり湧出孔三ケあり、上方の者最大也、幅二三尺なる岩罅より熱湯滾々として噴出し、岩壁を流下して一大湯瀑をなす。瀑下の瀧壺卽ち浴槽にして深さ胸に達す、清澄透明にして溫度肌に適す。入りて浴せんか、頭上に鏈ヶ岳の嶂壁を仰ぐ可く、脚下に千仞の谷を望む可し、而て傍にに殘雪の皚々たるを見る、眞に仙境なり。

浴槽より少しく隔りたる所に、方壹間ばかりの小屋あり、然れど唯だ岩壁に接し木を曲げて草を被ひたるのみ、雨を凌ぐにも足らず、狐狸の巢窟にも劣りたり。我等は其處に一夜の宿を借りたるに終夜雨降り頻りたれば、顏と言はず頭と言はず點滴頻りに至り、果ては敷物迄濕はすに至れり。然れども疲れの故にや夢現の間に夜を徹せり。

斯くて夜明くるも雨熄まず、朝餉を炊ぐ事も叶はねど、行手に徒涉す可き河を控へ居れば、增水にてもあらんか、歸る事も叶はねば、早く出立して安全の場所に到るに如かじとの强力等の注意に從ひ、明くるを待ちて出立せり。斯くて篠つく雨を冒し、虎杖等身を沒する迄に繁れる中、急峻胸を衝く如き坂路を降り、漸くにしてとをる炭燒小屋にたどり着、其處に朝餉をしつらへて力を得、再び歩を起して二股の橋に出で、もと來し途を四ッ谷に歸れり。

此行若し白馬山のみなりしならんには、眞に平凡に終りしものを、鏈ヶ岳に廻はりし爲め、種々の危險を冒し艱苦を嘗め、始めて登山らしき心地し、赤石に亞での愉快を覺えたり。

因に山木旅館の余り親切ならざると、强力等の懶怠にして働かざるとは、我等に少なからず不便と不快とを感せしめたり。

森人萬語 (二)

乙鳥生

秋夜蕭條秋雨聲　山房夜深夢難成
臥床展轉思故人　蟋蟀三更鳴不罷

我高水會の俊才芋井史君逝くと聞いて轉感慨に堪へず我等は已に三人のクラスメートを失へり曰く桜原君曰く鈴木君然して內田君！

松原君は木曾谷深き王瀧の人君の訃に接せしは明治四十三年の夏なりしと覺ゆ次で大正二年の新春世は未だ屠蘇の香に醉へるの時鈴木君亦夢の如く名古屋に不歸の客となれり君の故郷は實に水清き三河小原の里なりしなり

回顧すれば既に六年の過去川風寒き五月の一夜(土曜の夜なりし)松原君と行人橋にあり君や棄兒行を吟ずて曰く哀々『不禁無情淚』と其聲怨むが如く訴ふるが如く今尙余が耳朶にありて哀々禁せざるなり。

四十四年秋余病みて郷に歸るや鈴木君の同情切なるものあり然して當時見舞はれたる余が見舞ひたる君のレターを余に於ける君が絕筆となせしこう是非なけれ。

內田君は『信濃に名高き善光寺』に程遠からぬ芋井の里を郷とし且つ號にも用ひたり君は殊に數學に長ずてクラスに於ける代數の答は常に君に待たれたるを記憶す然してユーモア式色彩を帶ぶ同人等は君を呼ぶにM君なる別號を以てせり就中岫雪君及余を以て最とせん實際うれだけ我等間には隔てなかりしなり

我不幸にして文才に乏しくたゝ三君を物語るべき禿筆なきを悲しむ吾人は尙今年に至てTI二人の青年血族を失ひ痛く無情を感じて止まず然してTは工業界に入りIは劇壇に立ち何れも將來に於ける我相談對手たりしなり彼の嘗て郷土誌に『未來の外務大臣と人も許し我も任ずたる云々』と書かれたる過去のSを併はすれば實に三人なり

思へば彼も三此も三合せて六なり夫れ天地は萬物の逆旅詩歌にもいはずや『嗚呼世

の中は烏羽玉の夢かうつゝか白雲の浮橋渡る人生や』人間畢竟香爐似半作雲烟半作灰

然れども吾人は徒に人生を夢幻泡沫とのみ觀ずるものにあらず寧ろ意義ある幸福を現實に求め只管現在に眞摯たらん事を期するものなり最後に吾人が愛誦するロングフエーロー『人生の聖歌』を附記して擱筆す

人生の聖歌

一、人の一生は哀しくも
　空しき夢となり語れ
　眠れる靈は死せるなり
　現の物は幻ならず
二、嗚呼人生は實なり誠なり
　目ざすところは墓ならず
　今も塵にてちりとなる
　運ぶみ靈にかゝらめや
三、喜びや又かなしみや
　我的ならト又道に
　勤めいりしみ今日のこと
　果たして更に明日ぞ待つ
四、技藝は長く時早し
　心は剛くをゝしとも
　陰濕れる皷打ち鳴らし
　墓へ墓へと進むなり
五、此の世の廣き修羅場に
　そが人生の戰陣に
　逐ひまはさるゝ畜たるな
　男々しき勇士と戰へや
六、樂しき未來を待つ勿れ
　死にゝし過去に屍を埋めよ
　活ける現在にいうしめや
　心は内に神高く
七、偉なる人等の生を鑑ば
　我もひとしく功たて
　去りし後にも留め得む
　時の眞砂に足跡を
八、この人生の荒海を
　渡らん人の或は又
　よるべをなみに破船せば
　其が足跡に起たすべく
九、されば吾等は奮ひたち
　如何なる運にも氣をたけく
　撓まずなしつゝ又逐ひつ
　勤めて待つこと學べかし

理想の山御嶽

佐伊塔

八月號に於て渡邊君が理想の山富士を書いて有つた私は渡邊君が何所の人か知らないが然し多分富士の裾野所謂湖邊（富士八湖の湖岸にある村々を一般に湖邊と云ふ）の人と思ふ甲州に生れ甲州に育つた同君には或は其が理想の山かも知らん私は富士が理想の山でないとは云はぬが吾々木曾に育つた者には矢張り御嶽が理想の山と思ふ何となれば其れは富士は形に於て或は風光美の點に於て櫻と共に日本を代表すべきものであるかも知らぬ從つて吾々の理想の山かも知らぬ然し御嶽は見る樣な男性的な所がない御嶽に見る樣な崇嚴な氣が見ゐない又御嶽に見る樣な吾は日本アルプス中の盟主であると云ふ樣な自覺的の雄大が見ゐない私は昨年本縣へ來てから毎日富士を見た殊に今年四月から八月半迄最近に裾野に出張して居つて朝夕富士に接する事が出來た成程富士は風光の點に於て稱すべきものが有るかも知らぬ殊に河口湖畔に立ちて波靜かなる時の倒富士雲を拔きて見ゆる富嶽等は誠に稱すべきである

然し富士は俗人化して居る（少し生意氣な云分だが）私の心の持ち樣か知らんが所謂富士行者と云ふ人にさへ信仰と云ふ事なしに唯登ると云ふ事のみである樣な氣がする殊に富士自らか周圍の山々が小さい故か御嶽に見る樣な雄大でなく鳥なき里の蝙蝠然たる雄大が見ゐる

之等の點に於て私は富士よりも御嶽は理想の山とする者である少なくも吾々木曾に育てられた者の理想は御嶽であらねばならぬと思ふ

見よ御嶽の男性的なる氣骨稜々吾々蘇鄕に育てられたる者の意氣を示すではないか近時先輩中に吾々後輩の意氣の餘りに消沈せるを憤慨する者がある誠に先輩が後輩に對する情最もの事と思ふ此の意味に於て私は此種の警告の多からん事を希望するもの

である而して後輩たる者奮然覺醒努力を要すべき時と思ふ

此の點に於て御嶽の如く氣骨稜々内に萬丈の氣焰を藏し期あらば奮出せんとする男性的なる山を理想とするものである

而して吾々若し事をなすに當りよし事に大小の別有りとは云へ其れが成巧を遂げんとせば其所に大なる熱心と大なる努力と而して大なる責任てふ自覺心がなくてはならぬ吾等は此の點に於ても深く御嶽に學ぶ所が多いと思ふ

此意味に於て私は御嶽を理想の山として富士の如く優美的なる俗化せる山は排せんとするのである

蘇門の人々が朝夕此の理想の山御嶽に接し且つ夏期に於て之が登山旅行を試むる事は實に精神修養上に資する事の大なる事と思ふ（九月十八日甲州郡内の山中にて）

墓畔の夕暮

T生

小春日和の夕暮、久しく外出しなかつたK君と、秋の氣分を味ふのには――と云ふので人氣の少い與彈寺の境内へと歩を選んだ

墓地の樹木はもうとつくに紅になつて風のまに落ちるのが二人の前をスツトかすめては散るそうして二人が腰かけたベンチも數多い墓石もみんなが一樣に冷に感ぜられる、あたりに落ちた木の葉のうもれを匂ひと濕つた土の香とがトめ〳〵どうす暗い調和を作つて―平和な二人の胸に流れ込んだ

『もう秋と云ふシーズンも終りですね。』

とK君は靜な空を見つめ乍らいつた。義仲公の墓所の上の紅い櫻の一葉が風はないのにひらりと飛ぶと空にはもう塒に歸る小鳥さへ見えだした。

鐘が……鐘が高臺の寺からかすかに福嶋の町中に響き渡つた。と哀愁の念は一層私等のハートに强く淋しく響いた。

【和歌】

悼片岡生二首　竹軒

幸うすき子のまかりぢを秋風のせめてはむらくふくなとぞおもふ
あだし野の露ときにしなきたまのゆくへにはへしら菊の花

片岡健吾君悼みて　由緣　加藤源一郎

秋風に五日やみふし旅にしてもろくも君の失せにけるかな
雨そゝぐ小暗き夜を彼方なる山の麓に君を燒くとぞ

嘆遂けゝ君よ此夜を野邊にして黃色き煙となりて果つべし
秋草の亂れ咲くなるよみの路いく山河を君は越ゆらむ
わが友は草穗の亂れ蟲すだくこの山峽の煙と消ねしや
彼の夜かの劇場にして相見しが永き別れとなりにける哉
あはれ君彼の夜の事を歡樂の限りとなして逝きにけるらむ
秋風にかの岡山の玉島に新奥津城を君は建つるや

【俳句】

秋季雜題

炭竈はあれて子猿の住家かな　正風
名月をほめてかへるや紅葉狩　同
夕陽の江に淡くして野分かな　同
駒追うて霧の中ゆく乙女かな　快男子
葛の葉を追うて流るる家鴨哉　同

【雜報】

學校記事

○前期試驗終了。九月十七日開始の前期試驗は廿五日終了せしを以て翌日より實習に取りかゝり廿九日一先づ實習を打切れり

○終業式。三十日午前校内掃除後講堂に於て擧行七宮校長より本學期の成績の批評並に今後の注意に就ての訓辭あり同時に成績の發表ありたり

○始業式。十月一日午前九時後期始業式を講堂に擧行す例に依て校長の訓辭あり終て閉式

○秋期實習。十月二日より十二日に至る迄三年級は測量、二年一年は大平山落葉松林手入並びに裏山演習林地々拵其他農業實習を行へり

○第十五回運動會。數日前より十分の準備と意匠とを凝せる第十五回運動會は十月十七日校庭に擧行せられたるが午後は降雨の爲遺憾ながら中止し翌十八日午後再開無事競技を終りたるが兩日共盛會を極め觀覽者滿員の姿なりき詳細は別項記事にあり

○西澤敎諭出張。西澤敎諭は十月十二日伊那町に於て擧行されし信濃山林會第十五回總會に出席の爲め十一日同地に出張十三日歸校せり

第十五回運動會記事

岩田生

皇威は八紘に布き領土は南に伸び曠古の盛典は此處旬日を出ずして國民歡呼の裡に擧げられんとす我等生れて此の盛代に會ひ奉る何の幸か之に若かんや

試に眼を歐洲大陸に轉せんに修羅の慘劇は日々夜々に行はれ戰局の大勢は未だ必しも我に利有りと認むる事能はざる也、されば擊壤鼓腹徒らに太平を謳歌するが如きは時宜に適せる措置と言ふべからず

此秋に際し茲に我が校々友會第十五回大運動會の擧あるありて大典奉祝の實をあげ併せて鬱積せる二百の健兒の氣魂は遺憾なく發露されぬ、いでその顚末を畧記せむ

連日の餘念なき準備に各部とも其の功程前日迄に遺算なく完全せり

明くれば十七日暗憺たる夜來の雲行きに稍不安の色見ねしかど天の我に禍せざるを自信せる同窓貳百の意氣は轟々たる五發の號砲と共に天に沖せり

さても此日の盛裝せる會場打ち見やれば正門前には裝飾部員の丹精になれる大綠門巍然として恰も幾千の觀客を呑まんずと擂へ顏せる雄飛の二大文字は正に内に磅礴せる健兒の意氣を表現し夐かに駒の雄峯と睨み合ひて其の雄を競ふを覺ゆ

正門を入りし左手には御大禮盛儀に因める禮裝の官人に擬せる人形安置せられ之に掛けたる萬歲旛の金文字煌々と燿き時節柄人目を惹けり

北隅の矢場は今日しも賣店と變り其名も勇ましき雄飛亭と銘打たれ西隅の賣店振武軒と共に鮨梨菓子等を鬻げり

玄關横の測量器室は今日しも會報の發行所となれり、何れの新聞社の工場に於ても見る如く其内は陰氣にして印刷器具狼藉し墨に塗れし編輯小僧がわき目も振らず營々たるを思はしむ

賞品部に宛られたる玄關には賞品堆き間に優勝旗風に飜へり抑もこは誰の手に落つるや小箱に納められし賞牌は誰の胸に輝くや南隅に巍立せる大時計台は開會も中食もはた閉會も已が二本の針の命の儘なりと言はぬばかりに泰然たり

樂隊部員の手になれる奏樂堂も今日を限りに取り毀つは惜き裝飾なりし

中央に高く立てられし旗竿より四方に張れる綱には萬國旗飜り恰も滿艦飾の如く號砲は轟き覇氣横溢せる健兒は踊躍してグラウンドに參集せり壯嚴なる『君が代』の唱歌につぎて會長朗々と開會を宣するや晴れよ晴れよの裡に競技の帷は切り落され第一技は全生徒のフートボールに始まれり

丁度本日は日曜なれば朝より觀衆犇々と詰めかけ早や午前中に於て會場の周圍及來賓席は人山をなせり

轟く銃聲に我こう此度の勝をと入り代り立ち代りスタートに顯るる雄々しき風貌ゴールに躍り込む勝者の英姿一技より興を添へ圍繞せる萬衆をして汗を握らしめ氣を苛立たしめ腹を抱へさせ早くも四十の競技は些の澁滯なく着々として行はれたり

時しも南隅の大時計に聲あり曰く『腹が減つては勝とれぬいざ晝飯召し上れや！』と、腹が減つても勝ち度き健兒は茲に午前の競技を了へて各食事に就けり

○午後之部

晝餐に腹を造りし健兒は講堂に集り數日來意匠を凝らして成りし假裝行列の勢揃をなせり三年生の餘興は桃太郎鬼ヶ嶋を征伐して數多の財寶を獲多くの鬼共を捕へて意氣揚々として凱旋せるを村の人々が出迎へる光景なり、鬼も桃太郎も吾等が幼時お伽話に聞て小さい頭に畫きしものと一致せり眞の鬼も眞の桃太郎もこれには跣足にて逃ぐべく觀客をして啞然たらしめ殊に閉繞せる小學校の幼童を喜ばせたるも理なるかな此の美しき戲曲的色彩に包まれし一行かグラウンドを一周するや次に二年生の逆さ行列續けり、先登に逆行列と記せる筵の旗を逆に吊して押し立て後より奴が主人に荷を負はせ賊が査公を縛し車夫が人力車に乘りて紳士に挽かせ靴を冠りて帽を履くなど天地轉倒世は全く倒さまの姿なりし、此一隊の過ぐるや一年生の社會の階級有り古今の階級を網羅し千態萬樣出るは出るは車夫子守僧侶手代消防夫侍乞食いざり等時代を異にし階級を異にし國を隔てたるあらゆる社會の百面相をとりてねり歩く狀、假裝行列ならでは何時何れの地にありても見られぬ圖にてありし

先刻まで白の運動衣を齊しく揃へし百五十名が手を飜す間に斯る百態を演出せし其早業に觀衆を啞然たらしめ其奇態に臍をよらする時しも

天は何を咎めて我等に禍するか暗雲次第に低く垂れあはれ遂に此の三つの奇隊は雨に包まれぬ、觀衆も我も齊しく天を睨むで其の無情を鳴らせども憎むべき雨は愈々猛威を逞しうし遂に歡樂境は蹂躪せられ茲に競技は止むなく中止するに至りぬ

緊張せる健兒の意氣は一頓坐し唯髀肉の嘆をなすや切なるも如何にせん今は一同切齒扼腕明日を期して散會せり

殊に折角遠來の人々に滿足を與へ得ざりしのみか思ひかけぬ雨に晴衣の袖絞らしめしは憐れにも氣の毒なりし

○十八日

運動會の夢より覺めて耳欹つれば昨日よりの雨今朝に至るも尚歇まず雨樋傳ふ音萬々たり昨日の疲と氣抜けとに節々弛みて綿の如く身体の痛さを覺ゆる事甚だし

八時頃に至りて雨全く霽れ雲間より灑ぐ紫金の光赫々として狼藉たる會場を照しぬ

『嗚呼何故此の光を昨日惠まざりしか』と口々に罵れども詮なし、九時に一同校庭に參集正午より開會すべき旨會長より宣せられて準備に急ぐや雨に慘く蹂躪されしグラウンドは瞬時に元に復しぬ、號砲は、一發〳〵山より山に谷より谷に傳へて開會の刻刻に迫るを報せり

正午に至りて開會されたり

目抜きの競技は寧ろ今日の分に多く殊に更に十餘種も加へられしかば邪魔雨に妨げられて存分發露し得ざりし健兒の氣魂を擅に活躍するを得せしめぬ

嬉しや昨日見殘せし競技を見んと馳せ集りし觀衆は忽ち會場を埋めたり

勇壯なる競技に加ふるに今日は福島小學校の無邪氣なる小兒が殺伐なるグラウンドの眞中に紅葉の如き手を振り翳し千鳥の如き足をあやにして演せし『雀』『浦島太郎』の優しき二つの遊戲を粗朴なる青年の競技に稍々見飽ける人々を恍惚たらしめ喝采と拍手とを浴びせられぬ

最後に各級選手の千二百メートルあり各級より三名づつ選ばれし稜々たる都合十八の鐵脚は今しもスタートに列び立ち合圖の發砲を待てり何れ劣らぬ其の勇姿さても誰が名譽の月桂冠を得るか、滿衆齊しく手に汗を握れり斯くて名譽ある優勝旗は平素健脚よと謳はれし三年今井武雄君の手に歸したり

陰霽定まりなき秋の空は時々疎雨さへ送りて又々昨日の歎き見るべきかと危みしも天はかくまで禍する能はず、全生徒の聯合軍激戰を最後として競技は全く了りぬ

斯くて思ふ限り半日の歡に滿衆を醉はせ自らも我を忘れて踊躍を擅にせし惜しき此の會を閉づべき時は來りぬ

會長の閉會の辭ありて後高き校歌は杭ケ原原頭を壓し我が校友會の前途を祝すべき萬歳の獅子吼の如き呼號は四山を罩める暮靄の中に消ゑ失せ新開の里は再び元の大的然に返りぬ

會員移動

○松嶋周一君は昨秋奈良縣宇陀郡松山森林測候所に轉任の由羽田君より通報あり

○金田美行君は今回野尻製材所より妻籠出張所へ轉任

會員消息

○片岡健吾君の訃　三年生片岡健吾君は前期試驗開始前より氣分勝れざりしが試驗中は醫師の投藥を乞ひ押して登校し居りしに九月廿五日頃より容體惡しく廿九日俄然危篤に陷り午后一時半遂に不歸の客となりぬ病名は腸チブスにて死因は心臟痲痺を起せしなりと云ふ因て同夜火葬に付し越ゑて十月六日郷里岡山縣に歸葬する事となりしを以て校友一同停車場に遺骨を見送りぬあゝ昨夜提携談笑の人今や冷灰白骨と化す人生眞に朝露の如し秋風に向ひて恨轉々深きを覺ゆ

老木の紅葉

本校前書記安井正夫氏は老後の思出にとて今回福島町會議員の補缺選擧に出馬し目出度當選の榮を擔はれしが近日記者の許に『福嶋町會議員に當選せし日よめる』とて左の和歌を寄せ來れり

皆人の惠の露にうるほひて
老木のもみち色に出にけり

老武者の出陣さこそ花々しき功名もあらんずれ

○川崎本雄君は先般來活版業開始の計畫中なりしが此程工場出來機械も漸次完備せしを以て九月末愈々開業し諸種の印刷の需に應ずる由、序に君も亦今回女井正夫氏と同樣福嶋町議の一椅子を占め得たる一人なり君が前途之より多忙ならん幸ひに健在なれ

○信濃山林會。同會第十五回總會は十月十二日上伊那郡伊那町小學校に開會出席者八百餘名長井郡長の開會の辭に次ぎて赤星知事の戊申詔書捧讀、式辭あり次で監事小林直治郎氏の會務會計の報告知事の告辭あり了て知事は左記五氏一村一青年會に對し表彰狀を授與し授賞者總代澁谷伊那村長の答辭及諸氏の祝辭あり休憩後講演へ移れるが講演者及其題目は左の如し

信州經濟上より見たる林業の地位　山本聖峰
造林經營の好機　安藤林務課長
雜森取扱に就て　望月林學博士
信州地方山岳林の特性　河合林學博士

本縣林業上功勞多かりし廉により表彰せられたる人、村、會名左の如し

北佐久郡協和村長　柳澤和一郎
伊那村
下伊那郡座光寺村　座光寺青年團
下高井郡瑞穗村　牧笹岡宗右衛門
西筑摩郡日義村　故村上彌惣右衛門
下高井郡平穩村　佐藤喜惣治
上水内郡若槻村　故鈴木長兵衛

大正四年十月廿三日印刷
大正四年十月廿五日發行　（定價三錢）

長野縣西筑摩郡福島町四〇四番地
編纂兼發行人　安井正夫

長野市西後町丙二十一番地
印刷者　田中彌助

長野市西后町乙二十一番地
印刷所　長野新聞社活版部

長野縣西筑摩郡福島町二八九番地
發行所　澁澤書店